

## オーストラリア

協会名：オーストラリア手話通訳者協会（ASLIA）（法人）

### 1. 手話通訳の現状

ASLIA は 1991 年に設立され、オーストラリアでは、手話通訳者をもっとも代表する団体で、現在の会員数は 310 人。運営委員会と代議員会と州支部によって構成されて、6 つの州支部の所在地は、クイーンズランド、ニューサウスウェールズ、ヴィクトリア、タスマニア、南オーストラリア、西オーストラリアである。南オーストラリア部局に関しては、12ヶ月前から組織が再構成され、来年の全国総会の主催支部となっている。

### 通訳者資格認定について

オーストラリア翻訳・通訳資格認定機関（NAATI）は、およそ 57 言語の翻訳・通訳者の認定を行っている。その中には、オーストラリア手話（Auslan）も含まれている。しかし、NAATI はオーストラリア手話／英語の翻訳は認知・認定をしていない。オーストラリア手話／英語の通訳は、すでに 1983 年から認定されている。現在まで 883 人（注 1）が資格を取得している。その中の 154 人は専門家レベルで、879 人は専門家補助レベルである。しかしながら、この数字は実際の通訳者数ではない。通訳者の中にはさまざまな事情により活動を休止している者もいるからである。現時点では、おおよそ 350-400 人が国内各地で通訳者として働いていると推定している。それと比べて、オーストラリアのろう社会の規模は、もっとも一般的な推定数字は 6,500 人（ジョンストン 2004）から 15,400 人（ハイド・アンド・パワー 1991）。

（注 1）この数字は通訳者として活躍している人の数を指す。資格の認定者数ではない。同じ人が 2 つの資格を持つこともありうるからである。

### 通訳者育成プログラム

オーストラリアの通訳者教育には、高等教育レベルの育成プログラムが専門学校と高等教育の両方にあり、全国 6 カ所で毎年もしくは隔年で開講されている。2010 年には、新しい翻訳・通訳者養成課程が承認され、2011 年後期から一部の教育機関でスタートし、2012 年 1 月から全国的に展開した。このように、我がオーストラリアは通訳育

成の新しい時代に入った。そして、この新しい養成課程がどのような成果をもたらしてくれるのか、本当に楽しみである。さらに、専門学校で受講した場合、2種類の資格を取得することができる。それは、通訳学士と通訳学専門士の資格である。実際、似たような資格は既にあるのだが、地域によって、講座内容やカリキュラムが異なる。この新しい養成課程によって、訓練内容は統一されるようになるだろう。現在、オーストラリアの専門学校と高等教育機関がオーストラリア手話／英語の通訳に与えられる資格は主に以下のものである。

専門学校の場合：

通訳学士（オーストラリア手話／英語）

通訳の通訳学専門士（オーストラリア手話／英語）

高等教育の場合：

オーストラリア手話／英語通訳修士

翻訳及び通訳の修士号

翻訳及び通訳の教育学修士号

社会科学修士号（翻訳及び通訳研究科）

雇用について

オーストラリア手話／英語の通訳者は、芸術、会議、法廷、教育、労働雇用、政府、保健、法律制度、医療、政治、宗教、スポーツ、レクリエーション、テレビ、劇場など、あらゆる分野で活躍している。

ろう通訳者の場合は、オーストラリア手話／英語の通訳者と協働し、知的障害を持つ聴覚障害者や、盲ろう者、聴覚障害を持つ移民など難度の高い通訳業務を担っている。

2) ろう社会の現状

オーストラリアでは、英語が最も広く使われているが、公用語はない。オースラン（オーストラリア手話）は、ろう社会の言語であり、政策レベルで政府に認められている。（ドーキンス、1991）（注2）

（注2）ダーキンス J（1991）「オーストラリアの言語：オーストラリア言語と識字政策」オーストラリア政府印刷局。キャンベラ。

オーストラリアには、ろう者が信頼することができるような連邦法や州法はなく、オーストラリア手話／英語通訳者の法的権利を主張することはできない。しかし、国の障害者差別禁止法（DDA）（1992）は、間接的な差別も含めて、障害者に対する諸差別を禁止している。要するに、DDAによって、ろう者が健常者と同様に情報が提供され、コミュニケーションをとることができるように「合理的配慮」を求める権利が、暗に示されていることになる。

「デフ・オーストラリア」はろう者のための、国内最大の当事者団体である。連邦政府から資金の援助を受け、聴覚障害者事業全般の情報や意見を政府に提供する役割を担っている。「デフ・オーストラリア」は現在、補助金事業の一つとして、「ビデオリレーサービス」を「国内（電話通信）リレーサービス」に加えて、全国的に展開させることを求めている。

### 3) 国内の手話通訳コミュニティの 2007 年以降の 2 大成果

#### ASLIA 全国大会及び通訳養成指導者ネットワーク・シンポジウム

ASLIA が主催する全国大会に、国内外から 200-250 人の参加者が集まる。毎年、世界的に知名度の高い方を基調講演の演説者に依頼しており、今年は、WASLI 理事会からデブラ・ラッセル博士を招く予定である。昨年 Brisbane での大会に、WASLI 理事会の方々に来ていただき、大変感謝している。少し余談になるが、今年は 8 月 26 日から 30 日にシドニーで開催予定である。こうして南半球にいるので、飛行機でオーストラリアまでは、乗り換え不要である。ぜひ参加してほしい。詳しい情報はこちらのサイトを参照。[www.asliaconference.org.au](http://www.asliaconference.org.au)

通訳養成指導者ネットワーク（ITN）は、ASLIA に属する委員会であり、オーストラリア手話／英語の通訳養成指導者たちの連携を図り、情報交換や技術向上、交流などの機会を提供している。

ITN は、独自のホームページを持っており、毎年 ASLIA の全国大会の後にシンポジウムを主催している。ITN は海外の通訳者トレーナーの加入を大歓迎している。詳細は ASLIA のホームページを参照。[www.aslia.com.au](http://www.aslia.com.au)

### 会員と地域のサポート

これは、「アクロス・ザ・ボード」という ASLIA の委員会が運営する、ASLIA 会員向けの機関誌である。学術論文やイベント情報、倫理問題など専門的な問題に関するアドバイスなどステップアップのための専門的な情報を掲載している。

ASLIA が機会創出基金 (COF) を設立した。いままでは、この基金を使って、発展途上国の通訳者を ASLIA の学会や通訳養成指導者ワークショップに招待してきた。去年は、パプア・ニュー・ギニア、セルビア、インド、フィジーとサモアから 6 人の通訳者を大会に招いた。今後、この COF を使って、オーストラリア国内の通訳者トレーナーを地域の発展途上国に派遣し、その地域の通訳者と協働し、コミュニティに貢献できるように、計画している。

## 4) 国内の手話通訳コミュニティの今後の 2 大課題

### サービスの提供及び現在の通訳者養成

オーストラリアは大きな国で、アメリカとほぼ同じ広さであるが、人口は 2 千 2 百万人と比較的少ない。オーストラリア統計局の 2006 年国勢調査（注 3）によると、大部分の人口が海岸沿いの都市に集中し、約 70% の人が大都市に住んでいる。その他の 30% の人は地方やへき地に暮らしている。そして、多くの手話通訳者は大都市にいるため、地方やへき地の聴覚障害者にサービスを提供することができない。そのため、今もっとも試験的なプロジェクトとして取りかかっているのは、特定施設（会社や保健所など）における動画通訳サービスの必要性を調べることである。また、地方や田舎のセンターの手

話通訳者を支援するために、インターネット専門開発ワークショップ（「Interpret-ED」）を始めた。国内各地で活躍している通訳者たちは、このワークショップを通して、技術向上のチャンスが得られる。

（注 3）<http://www.abs.gov.au/AUSSTATS/abs@.nsl/Lookup/4102.0Chapter3002008>

## オーストラリア手話／英語の認定及びベテラン通訳者の慢性的不足

これはオーストラリアだけが抱えている問題ではない。コミュニケーション保障に関する大きな問題が、オーストラリア手話／英語の通訳者の供給不足と需要過剰となっている。主要都市と地方や田舎との距離が、この問題を助長している。通訳サービスを提供するために、片道に数時間かかるケースもあります。更に、経験豊かな通訳者（NAATI 上級通訳者レベルに認定されている者）の数が、経験の浅い手話実務者（NAATI 上級通訳者補助と認められている者）の数に比べて、遥かに少なく、ほぼ 5%対 95%の割合である。

### 5) 今後の 2～4 年間、WASLI に貢献できること

オーストラリア手話通訳者協会（ASLIA）はニュージーランド手話通訳者協会（SLIANZ）や WASLI の地域代表といい関係を維持しており、この地域内の発展途上国の通訳者に対して、さまざまなサポートを提供してきた。アジア太平洋地域においては、オーストラリアとニュージーランドは大変独特な存在にある。隣国と比べて、我々の国も通訳者協会も、豊かな資源と財源を持っているからである。オーストラリア手話通訳者協会の「機会創出基金」（COF）は、この地域の通訳者に訓練を受けるチャンスを与え、様々な支援や資源をいい条件で提供し続けていくことを可能にした。また、先述したように、現在 COF 事業では、発展途上国の通訳者を、ASLIA の大会への出席の援助をしているが、それだけではなく、今後 COF 事業の対象を広げて、オーストラリアの通訳養成指導者をこの地域の発展途上国に派遣し、現地のろうコミュニティの通訳者と協働し、支援をすることも計画している。オーストラリア手話通訳者協会は今後とも、ぜひニュージーランド手話通訳者協会と WASLI と協力し、この地域の発展途上国で活躍している通訳者たちを支援していきたい。

## 参考資料

ハイド, M、パワー, D (1991) 「ろう者によるオーストラリア手話の使い方」 ブリスベン: グリフィフ大学ろう者学研究センター。

ジョンストン, T (2004) 「消えて行くろう社会? 人口、遺伝、そしてオーストラリア手話の未来」 ろう社会のアメリカン年代記 (5)、358-77 ページ